様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 4 月 25 日現在

機関番号：32510
研究種目：基盤研究(B)
研究期間：2009-2011
課題番号：21320079
研究課題名（和文） 談話のカートグラフィー研究：主文現象と複文現象の統合を目指し
研究課題名（英文） The cartography of discourse: A unified analysis of main clauses and subordinate clauses

研究代表者 遠藤　喜雄（ENDO YOSHIO）
神田外語大学・大学院言語科学研究科・教授
研究者番号:50203675

研究成果の概要（和文）：本研究では，海外に知られていない日本語学の優れた研究を理論言語学の枠食いに洗練して，国際会議で発表した。その成果を日本に持ち帰り，ワークショップを開催し議論を深めた。その結果は毎年，報告書として出版している。さらに、成果を社会に還元するため入門書を出版予定である。また、広く，本研究の成果を知ってもらうため，日本語と英語で本の形で出版する準備をしている。

研究成果の概要（英文）：This research project aims at investigating the nature of the so-called cartography of syntactic structures. One of the main topics of this project is to refine the works of traditional Japanese linguists into the style of the cartography to present at international conferences outside Japan. The results of the conference presentations are further discussed at the various workshops in Japan and published from international publishing companies and as well as from publishers in Japan.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2009 年度	3,000,000	900,000	3,900,000
2010 年度	2,200,000	660,000	2,860,000
2011 年度	2,400,000	720,000	3,120,000
年度			
年度			
総　計	7,600,000	2,280,000	9,880,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：言語学・言語学
キーワード：統語論

１．研究開始当初の背景
生成文法における新しい流れとして、統語構造を多彩な機能範疇を駆使して詳細に地図のように記述し説明するカートグラフィープロジェクトが現在ヨーロッパを中心に進行中であった。しかし、日本からのこのプロジェクトにどのような貢献が出来るかは明らかでなかった。

２．研究の目的
本研究はこの研究プロジェクトへの貢献を日本語学の成果を理論言語学の形に洗練して世界に発信することを目指した。特に英語学の成果も視野に入れながら，新たな貢献を日本の外に発信し，日本においては，日本語学と英語学の統合を目指した。

３．研究の方法

日本国内と海外からカートグラフィー研究の最先端の研究者、現在の生成文法の主流をなすミニマリズムの研究者そして機能範疇に関わる意味や論音韻の研究者を海外から招聘して研究集会を開催した。招聘者は，以下の通り：益岡隆志、仁田義雄、森山卓郎、野田尚志、Ian Roberts, Luigi RIzzi, Guglielmo Cinque, Cedric Boeckx, Ur Shlonsky, Anna Cardinaletti, Lilianne Haegeman 等。

４．研究成果

日本語学において海外で知られていない優れた研究をカートグラフィーの枠組みで洗練して、国際会議で発表し、その成果をワークショップや学会に持ち帰り、フィードバックすることにより日本の学会に新しい波を起こした。これにより日本における新たな言語学の可能性が開かれ，その成果は毎年発行されている報告書で詳細に述べられている。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 22 件）

遠藤喜雄

1） 「フォーカスのカートグラフィー»『言語科学研究』(神田外語大学大学院紀要）１７巻　２０１０年 pp.２１〜３７.
2） The EPP is Satisfiable by Modal Particles *Scientific Approaches to Language* 『神田外語大学言語科学研究センター 紀要（別冊)』 ２０１０年 pp.４５〜６０.
3） A Note on Illocutionary Force and Modal Particles. *Scientific Approach to Language*（神田外語大学言語科学研究センター紀要）10 巻 ２０１０年 pp.１〜１２.
4）「主語のカートグラフィー」『神田外語大学大学院紀要　言語科学研究』（特別号１）遠藤喜雄（編）２０１０年 pp. 41-50.
5）「終助詞のカートグラフィー」 『発話と文のモダリティ』(ひつじ書房) ２０１１年 pp.６７〜９４.
6） Syntactic view of head movement. In Universals and Variation. Gao Ming-le (ed) ２０１１年 pp.142-146.
7） The cartography of non-root sentences. 『神田外語大学大学院紀要　言語科学研究』(特別号２）遠藤喜雄（編）２０１１年 pp. 93-109.
8） 「語順と機能範疇」『神田外語大学大学院紀要　言語科学研究』(特別号２）遠藤喜雄(編）２０１１年 pp. 323-324.
9） Chain and head movement『神田外語大学大学院紀要　言語科学研究』（特別号 3）遠藤喜雄（編）２０１２年 pp. 107-113.
１０）The functional projections of ‘why’ and the CP zone『神田外語大学大学院紀要　言語科学研究』(特別号 3) 遠藤喜雄(編）２０１２年 pp. 125-137.
１１）「複文とフォーカス」『神田外語大学大学院紀要　言語科学研究』(特別号 3) 遠藤喜雄（編）２０１２年 pp. 139-151.
１２）「副詞節とモダリティー」『神田外語大学大学院紀要　言語科学研究』(特別号 3）遠藤喜雄（編）２０１２年 pp. 207-214 .
１３）Information structure and criterial freezing. 『神田外語大学大学院紀要 言語科学研究』（特別号 3）遠藤喜雄（編）２０１２年　pp. 223-241.
１４）Illocutionary force in non-root sentences.『神田外語大学大学院紀要 言語科学研究』（特別号 3）遠藤喜雄（編）２０１２pp. 263-270.
１５）Chain and head movement『神田外語大学大学院紀要　言語科学研究』(特別号 3）遠藤喜雄（編）pp. 107-113.

長谷川信子（研究分担者）

1） Agreement at the CP Level: Clause Types and the ‘Person’ Restriction on the Subject. *The proceedings of the Workshop on Altaic FormalLinguistics* 5: 313-152. 2009. MITWPL, MIT.
2） 「直接受動文と所有受動文:little-*v*としての「られ」とその素性」『語彙の意味と文法』由本陽子・岸本秀樹（編）2009 年 pp. 433-454.くろしお出版.
3） Thetic Judgment as Presentational *Journal of Japanese Linguistics* 26 ２０１０年 pp.３〜２３.
4） 「日本語の主語と CP 領域についての３つの考察」 *Scientific Approaches to Language* 神田外語大学言語科学研究センター 紀要（別冊） ２０１０年. pp. 89-115
5）「文の機能と統語構造：日本語統語研究からの貢献」『統語論の新展開と日本語研究：命題を超えて』長谷川信子（編）pp. 1-30.

開拓社.

６）「CP 領域からの空主語の認可」『統語論の新展開と日本語研究：命題を超えて』長谷川信子（編）pp. 31-65. 開拓社.

７）「統語構造と発話の力：日本語の CP 領域現象から」『発話と文のモダリティ』（ひつじ書房）２０１１年 pp.89-114.

〔学会発表〕（計 12 件）

遠藤喜雄

１）A syntactic view of head movement: A cartographic approach to adverbial clauses (*Generative Grammar in Old World (GLOW) in Asia VIII-2010*) ２０１０年. 北京語言大学（中国.）

２）「フォーカスのカートグラフィー」『日本語モダリティと関連現象』（北海道大学）２０１０年.

3) New Perspectives of Generative Grammar（『生成文法の新展開』）北海道大学）２０１０年.

4) 「カートグラフィープロジェクトの概要と論点(アスペクトと複合語)」日本言語学会ワークショップ（東北大学）２０１０年.

5) Interpersonal Modal Particles in non-Root Sentences: Head Feature Movement (*Generative Initiatives Syntactic Theory (GIST) 2*（ベルギー：University of Ghent）.

6) Ways to Form Chain: Representational vs. Derivational Approaches. *Chain in Minimalism*(横浜国立大学)２０１１年.

７）The functional projections of 'why' and the CP zone. Invited talk at State of the Sequence, University of Tromso, Norway. ２０１１年.

８）「複文とフォーカス」国立国語研究所主催ワークショップ「複文構文の意味研究」における招待講演

９）「副詞節とモダリティー」『言語学ワークショップ』(神戸大学)

長谷川信子（研究分担者）

1) 日本語の主語：ガ格と人称と提示文 ワークショップ『70 年代「日本語の生成文法研究」再認識』(神田外語大学) ２０１０年.

2) The View from CP: Force and Person-Feature Agreement. GLOW-in-Asia VIII 2010. ２０１０年. Beijing Language and Culture University.

3) Speech Styles and 'The Speaker' Subject. The Workshop on "the Interface between Syntax and Pragmatics/Semantics. ２０１０年 （神田外語学院）.

〔学会発表〕（計　件）

〔図書〕（計３件）

1)『神田外語大学大学院紀要　言語科学研究』(特別号）遠藤喜雄（編）２０１０年３月.

2)『神田外語大学大学院紀要　言語科学研究』(特別号 2）遠藤喜雄（編）２０１１年３月.

3) 『神田外語大学大学院紀要　言語科学研究』（特別号 3）遠藤喜雄（編）２０１２年３月。

〔産業財産権〕

○出願状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

なし

６．研究組織

(1)研究代表者 遠藤喜雄 (ENDO, YOshio)

研究者番号：50203675

(2)研究分担者 長谷川信子 (HASEGAWA, Nobuko)

研究者番号：20208490

(3)連携研究者

(　　)

研究者番号：